

港道隆教授 略歴

学 歴

昭和47年4月 東京外国語大学外国語学部フランス語学科 入学
 昭和52年3月 同上 卒業
 昭和52年4月 東京外国語大学大学院外国語研究科ロマンス系言語専攻（フランス語学） 入学
 昭和56年3月 同上 修了（文学修士）
 昭和59年10月 パリ第一大学哲学科博士課程 入学
 昭和63年1月 同上 修了（フランス第3段階文学博士）

甲南学園における経歴

平成元年4月1日 助教授（平成7年3月31日まで）6年
 平成7年4月1日 教授（平成27年3月5日まで）19年11箇月5日
 平成27年5月 名誉教授

主な役職等

平成11年4月1日～
 平成12年3月31日 甲南大学文学部人間科学科主任
 平成15年4月1日～
 平成16年3月31日 甲南大学文学部人間科学科主任
 平成19年4月1日～
 平成21年3月31日 甲南大学大学院人文科学研究科人間科学専攻主任
 平成22年4月1日～
 平成25年9月30日 甲南大学人間科学研究所長

主な役職等

LL 機器導入委員会委員	学長辞任請求管理委員会委員
基礎学力試験の試行試験問題出題委員	キャリアセンター委員会委員
教養課程運営委員会委員	言語教育アドバイザー・コミッティ委員
甲南大学と甲南高等学校・中学校との連絡協議会委員	
甲南大学とトゥレーヌ甲南学園高等部との連絡協議会委員	
合同教授会議員	公募制推薦入学試験問題出題委員
国際言語文化センター専門委員	大学院委員会委員
大学院人文科学研究科委員会委員	点字試験問題作成委員会委員
入学試験実施委員会委員	入学試験問題出題委員
入学試験問題出題主任	人間科学研究所運営委員会委員

港道隆教授 業績一覽

著 書

1983年	メルロ＝ポンティ	岩波書店
1997年	レヴィナス—法-外な思想	講談社
2006年	心と身体の世界化	人文書院
2012年	〈戦争の子ども〉を考える—体験の記録と理解の試み	平凡社

論 文

1978年	言語行為とコミュニケーション 東京外国語大学 フランス語科誌『ふらんぼ〜』6号 (70-81頁)
1981年	女・死・男—精神分析の歩 東京外国語大学 フランス語科誌『ふらんぼ〜』9号 (82-110頁)
1982年	言語の起源の労働 『言語』1月号, 大修館書店 (32-40頁)
1987年	自伝的な“言葉”—pourquoi pas (why not) Sartre (サルトル以後のサルトル<特集>) 『現代思想』15(8), 青土社 (58-81頁)
1989年	デリダ・出来事・以降 (戦うデリダ—言語のポリティクス<特集>) 『現代思想』17(9), 青土社 (158-181頁)
1989年	Oui と Oui のアフォリズム 『現代思想』17(9), 青土社 (201-217頁)
1990年	言語に浸透する権力 (上) 『情況』10月号, 情況出版 (84-101頁)
1990年	言語に浸透する権力 (下) 『情況』12月号, 情況出版 (155-177頁)
1990年	和辻哲郎—回帰の軌跡 『思想』798, 岩波書店 (4-51頁)
1991年	差し出された鏡 『現代思想』19(2), 青土社 (68-72頁)
1991年	差し出された鏡 (承前) 『現代思想』19(3), 青土社 (266-283頁)
1993年	自己犠牲と思弁 『現代思想』1, 2月号, 青土社 (204-219頁)
1993年	生の言分り 『情況』12月号, 情況出版 (38-53頁)
1993年	西田幾多郎自己犠牲と思弁—一種の論理の行方-1- 『現代思想』21 (1), 青土社 (204-219頁)
1993年	西田幾多郎自己犠牲と思弁—一種の論理の行方-2- 『現代思想』21 (2), 青土社 (274-294頁)
1994年	カント—然り 『現代思想』3月臨時増刊号, 青土社 (38-53頁)
1994年	責任の言語, 他者のエクリチュール 『岩波講座現代思想2』2号, 岩波書店 (243-276頁)
1995年	「善悪の彼岸」から「同情を超えて」 『文藝』34 (2), 河出書房新社 (279-282頁)
1996年	顔の彼方?—E. レヴィナス「エロスの現象学」から (上) 『思想』861, 岩波書店 (4-33頁)
1996年	顔の彼方?—E. レヴィナス「エロスの現象学」から (下) 『思想』864, 岩波書店 (128-147頁)
1996年	安住しえぬ「感受性」: エマニュエル・レヴィナスから 『「日本的なるもの」の脱構築』(甲南大学総合研究所叢書41) (43-53頁)
1997年	藪の中—テキスト装置 甲南大学『紀要』文学編101 (1-27頁)
1997年	もう一つの砂漠へ 『思想』874, 岩波書店 (5-33頁)
1997年	il y a の意味作用? 『フランス哲学・思想研究』2号, 日仏哲学会 (72-83頁)
1998年	自律の果てに 『現代思想』26(8), 青土社 (152-169頁)
1998年	記憶然り, 忘却然り 『現代思想』26(14), 青土社 (84-113頁)

- 1999年 Décidévènement, du texte 『現代思想』27(3), 青土社 (160-175頁)
- 1999年 デリダ Décidévènement, du texte (承前) 『現代思想』27(4), 青土社 (20-31頁)
- 1999年 ハイデッガーとナチズム 『第三帝国の野望 1930-1939』, 毎日新聞社 (277-280頁)
- 2000年 対決の正義 (上) 『思想』919, 岩波書店 (31-53頁)
- 2000年 思想の言葉—カフェのカント? 『思想』909, 岩波書店 (1-3頁)
- 2000年 主体の主体性としての Trauma
甲南大学人間科学研究所紀要『心の危機と臨床の知』vol. 1 (9-15頁)
- 2000年 パネルディスカッション「トラウマ—記憶と証言」
甲南大学人間科学研究所紀要『心の危機と臨床の知』vol. 1 (47-62頁)
- 2001年 対決の正義 (下) 『思想』920, 岩波書店 (30-58頁)
- 2001年 時計の由来—素描 『甲南大學紀要』文学編118 (1-23頁)
- 2002年 翻訳のメシア的政治性 『甲南大學紀要』文学編122 (81-130頁)
- 2003年 他者のトラウマ, 他者の言語
＜心の危機と臨床の知＞I『トラウマの表象と主体』新曜社 (165-196頁)
- 2003年 言語と亡霊—フランスの精神分析 ＜心の危機と臨床の知＞IV『心理療法』新曜社 (105-152頁)
- 2003年 時間とエクリチュール—脱構築の歩 『甲南大學紀要』文学編127 (62-127頁)
- 2003年 理性の共同署名 『現代思想』31(15), 青土社 (76-85頁)
- 2004年 死刑と暴力: 死刑の文字と精神—自立と他立と 『現代思想』32(3), 青土社 (103-123頁)
- 2004年 否認された神聖—哲学者の象徴天皇論 『甲南大學紀要』文学編132 (117-173頁)
- 2004年 Heidegger et son autre *Cahier, N° 83: Derrida, Editions de L'Herne* (pp. 185-190)
- 2004年 タナトグラム 2 『現代思想』32(15), 青土社 (144-150頁)
- 2004年 Divinité déniée et avenir d'une démocratie
La démocratie à venir autour de Jacques Derrida, Galilée (pp. 225-234)
- 2004年 こころの危機と近代化のひずみ
甲南大学人間科学研究所紀要『心の危機と臨床の知』vol. 5 (8-11頁)
- 2004年 国民の自己創設 『甲南大學紀要』文学編137 (73-100頁)
- 2005年 境界のフィクション (上) 『思想』969, 岩波書店 (74-95頁)
- 2005年 反復—プラス 1 『埋葬と亡霊—トラウマ概念の再吟味』, 人文書院 (194-215頁)
- 2006年 境界のフィクション (下) 『思想』970, 岩波書店 (130-142頁)
- 2006年 国民の自己創設 (下) 『甲南大學紀要』文学編142 (19-38頁)
- 2006年 肯定と抵抗 『心と身体の世界化』, 人文書院 (170-206頁)
- 2007年 残虐性に彼方は? 『暴力の発生と連鎖』, 人文書院 (131-178頁)
- 2007年 潜在への旅: halten の文法素描 『甲南大學紀要』文学編147 (1-31頁)
- 2007年 刻む時々【技術の最初の問い】
『ジャック・デリダ 1930-2004』(別冊『環』13), 藤原書店 (294-323頁)
- 2008年 F.-H.-L.—死をめぐるトライアングル—から残るもの 『甲南大學紀要』文学編152 (15-53頁)
- 2009年 労働における生と死 『甲南大學紀要』文学編157 (43-90頁)
- 2010年 祓う—フェティッシュから亡霊へ 『甲南大學紀要』文学編160 (213-236頁)
- 2011年 アナロジーの帰趨—「トラウマ」の引用符— (上) 『思想』1049, 岩波書店 (79-114頁)
- 2011年 アナロジーの帰趨—「トラウマ」の引用符— (下) 『思想』1050, 岩波書店 (91-126頁)
- 2011年 「~のために=代わりに死す」のキアスム 『甲南大學紀要』文学編161 (173-192頁)
- 2012年 喪, 赦し, 祈り—数ある例のひとつではない
『＜戦争の子ども＞を考える—体験の記録と理解の試み』, 平凡社 (282-326頁)
- 2012年 現象学から顔—痕跡へ, そして代補

- 『現代思想』(総特集 レヴィナス) 40(3), 青土社 (85-127頁)
- 2012年 語りと時間:『存在と時間』における言語の地位 『甲南大學紀要』文学編162 (129-142頁)
- 2013年 「世界」-1 『甲南大學紀要』文学編163 (209-233頁)
- 2014年 「世界」-2-1:M. ハイデッガー 「技術への問い」 『甲南大學紀要』文学編164 (181-204頁)

その他 (刊行されたもの)

- 1978年 J.-M. ブノワ 「マルクスは死んだ, そして悔恨」
『エピステーメー』 8月臨時増刊号 (第4巻第8号通巻第34号), 朝日出版社 (142-153頁)
- 1985年 マイケル・ライアン 『デリダとマルクス』 勁草書房 (433頁)
- 1985年 ルモンド紙『哲学のポスト・モダン (叢書「知のパサージュ」〈1〉)』 ユニテ社 (319頁)
- 1986年 J. デリダとの対談-1—鉤 [括弧] の中で 『現代思想』 14(7), 青土社 (238-264頁)
- 1987年 ジャック・デリダ 「自伝的な“言葉” —pourquoi pas (why not) Sartre」
『現代思想』 15(8), 青土社 (58-81頁)
- 1987年 W. HIROMATSU: “La philosophie de Marx 《pour nous》”
Le Marxisme au Japon, Actuel Marx, 2, L'Harmattan, Paris. (pp. 72-84)
- 1988年 不気味なものの内部分裂: J・デリダ 「精神」について
『ブック・ガイド'89:美的現代へのライフ・マニュアル』(別冊『文藝』) 河出書房新社 (164-165頁)
- 1988年 ピエール・ブルデュ 『実践感覚』 1 みすず書房 (281頁)
- 1988年 エマニュエル・レヴィナス 「パウル・ツェラン」 『詩と思想』, 土曜美術社 (106-115頁)
- 1989年 写真について 『現代思想』 17(10), 青土社 (裏表紙)
- 1989年 モーリス・ブランショ 「われらが有責性」, 『この男この国—ネルソン・マンデラに捧げられた14
のオマージュ』所収 ユニテ社 (261-266頁)
- 1990年 ジャック・デリダ 『精神について—ハイデッガーと問い』 人文書院 (254頁)
- 1990年 ピエール・ブルデュ 『実践感覚』 2 みすず書房 (280頁)
- 1990年 ロジェ・ジルー 「場所・私は (Lieu-Je)—詩の生成へのトポロジー」
『現代詩手帖』 6月号 (特集「フランスの現代詩」) 思潮社 (276-289頁)
- 1991年 サラ・コフマン, インタビュー この人を見よ—あるいは人はいかにして哲学者・女性となるか
『現代思想』 19(11), 青土社 (223-232頁)
- 1991年 サラ・コフマン, インタビュー この人を見よ—あるいは人はいかにして哲学者・女性となるか
『現代思想』 19(12), 青土社 (229-239頁)
- 1991年 エマニュエル・レヴィナス 「本の忘—我」
『現代詩手帖』 6月号 (特集「6月号「特集エドモン・ジャベス 書物, 沈黙, 言語」) 思潮社, (122-123頁)
- 1991年 ヘルベルトゥス・フォン・アメルンクセン 「写真におけるメランコリー状態について—ヴァル
ター・ベンヤミンとアレゴリーの概念」 『写真とフィクション』 7月号, 洋泉社 (55-75頁)
- 1994年 「デリダ」 「レヴィナス」 『現代思想ピープル101』, 新書館 (94-95, 208-209頁)
- 1994年 デリダ 「アクチュアリティの脱構築」 『現代思想』 22(9), 青土社 (26-34頁)
- 1995年 デリダ 「アクチュアリティの脱構築」 (承前) 『現代思想』 22(10), 青土社 (316-329頁)
- 1996年 デリダ 「アクチュアリティの脱構築」 (承前) 『現代思想』 22(12), 青土社 (49-56頁)
- 1996年 デリダ 「万国の世界市民たち, もう一努力だ!」 『世界』 11月号, 岩波書店 (298-313頁)
- 1996年 ジャン=リュック・ナンシー編 『主体の後に誰が来るのか?』, 解説 現代企画室 (327-347頁)
- 1996年 ジャン=リュック・ナンシー 「提起」, ジャン=リュック・ナンシー編 『主体の後に誰が来るの
か?』所収 現代企画室 (7-20頁)
- 1996年 モーリス・ブランショ 「誰?」, ジャン=リュック・ナンシー編 『主体の後に誰が来るのか?』

- 所収 現代企画室 (75-79頁)
- 1997年 『廣松渉著作集』第3巻月報 岩波書店 (4-6頁)
- 1998年 サラ・コフマン『人はなぜ笑うのか？—フロイトと機知』 人文書院 (237頁)
- 1998年 人を殺してはなぜいけないのか？(緊急アンケート 14歳の中学生に「なぜ人を殺してはいけないのか？」ときかれたらあなたは何と答えますか?) 『文藝』37(2), 河出書房新社 (36頁)
- 2000年 ジャック・デリダ『アポリア—死す「真理の諸限界」を[で/相]待-期する』 人文書院 (193頁)
- 2000年 Safaa Fathy 製作『D'ailleurs, Derrida (映画)』日本語字幕 Editions Montparnasse 最初の1/3
- 2003年 ハーマン・ラバポート『ハイデッガーとデリダ—時間と脱構築についての考察』 法政大学出版 (348頁)
- 2004年 追悼 ジャック・デリダ「あまりにも短かったことになるであろう生」 『図書新聞』2699号 (10月30日号), 図書新聞社 (1頁)
- 2006年 心霊術(オカルティズム)に何が隠れて(オカルト)いるのか?(1)ジグムント・フロイトと狼男セルゲイ・バンケイエフの間で 『みすず』48(9), みすず書房 (8-18頁)
- 2006年 心霊術(オカルティズム)に何が隠れて(オカルト)いるのか?(2)ジグムント・フロイトと狼男セルゲイ・バンケイエフの間で 『みすず』48(10), みすず書房 (32-41頁)
- 2006年 心霊術(オカルティズム)に何が隠れて(オカルト)いるのか?(3)ジグムント・フロイトと狼男セルゲイ・バンケイエフの間で 『みすず』48(11), みすず書房 (32-46頁)
- 2007年 「大森荘蔵「時を刻み切り取る」」 『国語総合教授資料 現代文編2』, 数研出版 (225-228, 235-241頁)
- 2008年 サファー・ファティ「すべての前線で回す」, 『言葉を撮る—デリダ/映画/自伝』所収 青土社 (267頁)
- 2009年 ジャック・デリダ『精神について—ハイデッガーと問い』 平凡社ライブラリー (288頁)
- 2009年 「解題にかえて」(サミュエル・ウェーバーとの往復書簡), サミュエル・ウェーバー『フロイトの伝説』所収 法政大学出版局 (355-386頁)
- 2009年 サミュエル・ウェーバー『フロイトの伝説』 法政大学出版局 (398頁)

その他(学会発表・学術的発表など)

- 1993年 ハイデッガー, ナチズム, デリダ 日仏哲学学会シンポジウム
- 1996年 il y a の意味作用? 日仏哲学学会, レヴィナス・シンポジウム
- 2002年 Divinité déniée et avenir d'une démocratie Colloque de Cerisy la Salle: La démocratie à venir à partir des travaux de Jacques Derrida
- 2006年 世界ラテン化におけるハイデッガーとデリダ 第一回ハイデッガー・フォーラム
- 2009年 和解から赦しへ 人間科学研究所 Web 掲載論文 (1-38頁)
- 2012年 愛と暴力—赦しのキリスト教化とその残余 人間科学研究所 Web 掲載論文 (1-55頁)

その他(社会活動・高大連携など)

- 1999-2004 甲南大学, 学術フロンティア「心の危機と臨床の知」
- 2001-2003 共同研究 哲学と境界の通過
- 2003-2004 九鬼文庫の資料的価値の思想史的研究
- 2004-2009 甲南大学, 人間科学研究所「現代人の心の危機の総合的研究」